

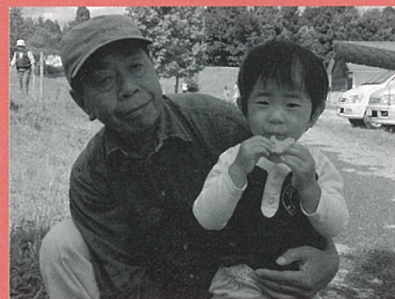
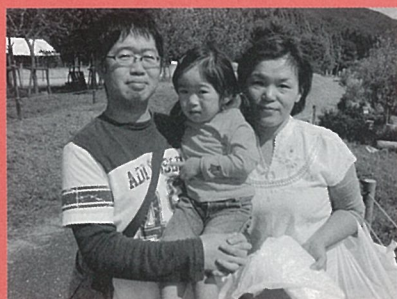
たかしま市
まちづくり
情報誌!

たかしまウオッチャーズ

第7号
10・11月号



●発行日/2010年10月15日 ●発行/たかしま市民協働交流センター



(敬称略)

◆目次

まちづくり対談 高島を肌で感じる P1, P2

きらきら☆NPO・市民活動

- ・こらぼらはうす P3
- ・朽木観光ガイドボランティアグループ P4
- ・高島地域まちづくり委員会 P5

カエルンリポート P6

たかしま INFORMATION P7

山本 幹夫 (安曇川)	本庄 有紀 (新旭)	圓明 聖也 (マキノ)
木津 宏和 (高島)	八田 有紗 (新旭)	藤原 大輔 (マキノ)
梅村 文子 (朽木)		岸田 基 (マキノ)
津田 まゆみ (朽木)		藤原 健太 (マキノ)
大島 菜々 (朽木)	鎌田 航輔 (今津)	高木 照久 (安曇川)
松井 美鈴 (朽木)		石田 恵理 (京都府)
上山 静 (朽木)		江上 舞 (兵庫県)
澤田 萌果 (朽木)		
中尾 真理 (朽木)		
八田 稔彦 (マキノ)	保井 きよ美 (安曇川)	角野 幸男 (マキノ)
由香 (マキノ)	一井 久子 (安曇川)	
千波 (マキノ)	石黒 静江 (安曇川)	
	入江 真弓 (安曇川)	
	堀尾 純子 (高島)	悠斗 (マキノ)

ご協力ありがとうございました。

まちづくり

対談

誌

高島を肌で感じる

高島には、地域を活気づけるために、集落に入り込んで仕事をされている人達があります。今回は高島の現状を「肌」で感じておられる6名の方々にお越しいただき、高島の地域課題についてお聞きしました。

〔司〕今日は、市内の集落に入って地域振興のための仕事をされている方々にお集まりいただきました。市外から来られた人が多いと聞いていますが、日頃の活動から感じていることを聞かせて下さい。

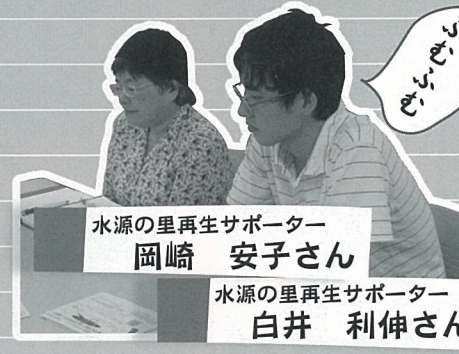
・自然と人間と共存して生活されているのが実感として伝わってきます。

・私は東京で学んで就職もしたのですが、なんでも買える便利な生活に疑問を持ち、もっと原点のようなことを学びたいと思って高島にきました。(ここでは、いきなり道路を大きな動物が横切ったりして驚きますが、日々自然の姿が変化し、感動しています。

・ただ電柵の多さには正直驚きました。キレイな自然があるのに囲わなければいけない現状はかなしいものがあります。

・高齢者のサロンに顔を出していますが、参加されている方々から元気をいただいています。高齢化した集落に若者が入ってくる元気になれると言いますが、お年寄りから若者も沢山学ぶことができます。

・高島市は一つだとか、田舎町だとか言いますが、市内をいろいろと回っていると決して一つではないことが分かります。雪の問題とか、交通のこととか。田舎町である高島市の中にも都市部と田舎がある様に思います。



水源の里再生サポーター
岡崎 安子さん

水源の里再生サポーター
白井 利伸さん

・人間というのは、自分達の今のレベルが基準になっています。なので、我々は山間部に住んでおられる方々は生活が大変だと心配するのですが、市街地の人々とは基準が違うので、そんなに不自由はないような感じですか。買い物も移動販売車が週に数回入ってくるので何とかなっている。ただ、病院に行くなどは大変です。

・私も同じような印象を持っています。病院通いでは、おじいちゃんが車を運転して外に行く時におはあちゃんが一緒に乗って病院に行くなど工夫されていますが、車がなくて一人で住んでおられる方は大変です。市街地に住んでおられる息子さんのお嫁さんが、仕事を休んで車で迎えに来たり。

・若い人達は、水源の里での農林業では暮らしていけない。そつすると市街地に出ていって独立せざるを得ない。しかし、両親は昔から暮らしている土地から出ていくのは非常に抵抗があって、水源の里に残っておられる。



緑のふるさと協力隊員
市島 朋美さん



若者定住協力員
加世堂 青さん

若者定住協力員
南條 智彦さん

〔司〕田舎暮らしの人達は自分達でなんでもやらなければいけない。なので都会の人達に比べて達者な方が多い様に思いますが…

・私は都市部だから田舎だからという差ではないように思いますけど。個人個人の意識で差が出てくるのではないのでしょうか。

・子供さんが外に出ておられると、非常にワンパターンな生活リズムになって刺激がありません。昔の祭や遊びなどを復活することによって、それが刺激となり『生きがい』につなげていくことが大切ではないでしょうか。





生活支援員

川嶋 美千代さん

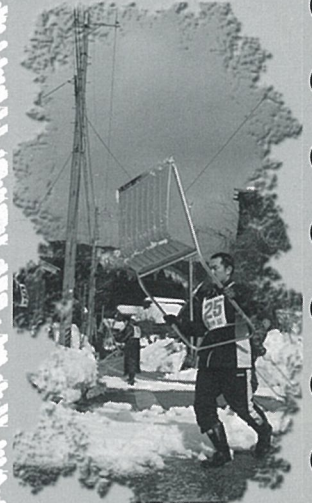


・私の担当集落では炭焼きの復活が決まりました。集落の中に入っていくことで皆さんが元気にと言っただけでなく、何か形を作って、それをきっかけにしてコミュニティ再生につながる様にすることが我々の役割だと思っています。

・若い人達は外に出ているとはいえず、お祭りやお盆などは急に人の数が増えます。みんな地元のことを大事に思っているんだなと思いますね。

・祭やお稚児さんができなくなったと寂しそうに言っておられたお年寄りがおられました。が、市外の若い方々が帰省された時に、そういったことができるとうれしいですね。

・高島の若者と話をしていると、いっとこの話なんかポンプンと出てくるのに驚きました。そしていっとこの同級生ともつながっている。なんだか、とってても人々の繋がりが密な感じですね。



【司】高島市は、自然の豊かさだけでなく、人間的な部分にも大きな魅力がありそうですね。

・我々の様な若者が集落に入り、いろいろな集会や行事に参加すると、集落の人々も何か考えなければというきっかけになっている感じがします。

・でも市外から来た者の基準で田舎の暮らしを考えると、もしかすると押しつけになるかも知れない。そんな不安もあります。

・私は身分的には高島市の職員なので強く感じるのかも知れませんが、行政は何事も平等であることが原則です。ですが、施策が一律だとみんな共倒れしてしまわないかと心配です。『平等』って理想ですが、地域や集落で異なることが多いので、みんな『同じ』という考えではなくて、その特徴を活かす様な施策が求められていると思います。

【司】来年度より高島市が(仮称)地域活動活性化事業補助金制度(通称 一括補助金)を導入すべく準備していますが、それは『自分たちの地域のこと自分たちで考えて解決して欲しい。その取組みを財政支援します。』という考え方ですね。

・そうですね。ただ、私が入っている集落の場合は、皆さん歳を取っておられるので皆さんの書類を作成するのは大変かも知れませんが、そういう場合、市の職員さん方がアドバイザーとして下さると、皆さんも助かると思います。新制度をきっかけに住民と行政との協働作業が始まるわけですから。

・私は地域の教科書を作っていますが、移住希望者に見てもらっただけではなくて、例えば小学校や中学校とかで、地元のルールを学ぶ教材に使っていただくと、将来市外に就職しても、地元に着用が残っていて、いすれ帰りたいという人が増えるのではないかと思っています。

【司】いろいろな話が出ました。今日出た話は『まちづくり』の大きなヒントになるだろうと思います。皆さん、有り難うございました。

・もつひと言。私が担当している集落の方々は日々、一生懸命生きておられます。手を抜くこともせず、当たり前のように田んぼ、畑、家の用事と賢沢も好まず、つましやかに暮らし平穏でいられることに幸せを感じておられます。歎息で苦しみながらも生活を守っておられます。過疎の集落は便利な暮らしに慣れてしまっている者にとってはある意味、心の癒しの場。でもあるように思います。

編集責任 たかしま市民協働交流センター

お話を伺った方々様は こんな方々です。

水源の里再生サポーター (高島市)
市内の16の水源の里を巡回し、区民の方々のお手伝いをしながら生活状況などを聴き取り、そして、集落の維持・活性化に向けた企画提案などを行っている。現在2名のサポーターが市内で活躍中。

緑のふるさと協力隊員 (朽木支所)
農山村に興味をもつ若者が、スーパー助っ人のごとく地域に入り込み、地域の一員として自己研鑽を積みながら地域活性化のお手伝いをしている。現在、朽木地域で1名が活躍中。

若者定住協力員 (高島市)
各集落の決まり事などを聞き取り、それらを「地域の教科書」と言う形でまとめることにより、外部からの移住希望者に集落の生活について理解してもらう。同時に、地域振興やコミュニティ作りのお手伝いを行っている。現在2名の協力員が市内で活躍中。

生活支援員 (高島市社会福祉協議会)
集落に入り込み、日常的な交流や見守り・安否確認などの仕組み作りや、地域課題や福祉課題の把握と改善計画の作成をしている。現在3名の支援員が市内で活躍中。

きらきら☆NPO市民活動

こらぼらはうす

川添会長のお話



マキノ地域まちづくり委員会で提案が出たのは平成17年の事です。初めは、テントブースを駐車場に設置しようと考えていたのですが、病院の福祉ゾーンを

使うという事で実現できませんでした。ですが、地域の交流の場は必要であると現在のこらぼらはうすが建てられました。また、当初の考えでは、ボランティアさんがこらぼらはうすに入っただけで形を考えていましたが、現在はオープンスペースとして運営しています。将来的には、設立当初の夢である『ボランティアの方にも入っただけで、地域の方との交流・ふれあいの場』となるよう、その想いに向かって頑張っていきたいと思っています。

体カボッカボカ



ヨモギ足湯体験時の様子

していましたが、現在は月2回のヨモギ足湯体験を行い、沢山の方に楽しんで頂いています。ヨモギには体をポカポカする効果があります。もちろん

当初は、ボランティアさんの協力で色々な作品を展示したり、教室を開いたりしていましたが、現在は月2回のヨモギ足湯体験を行い、沢山の方に楽しんで頂いています。ヨモギには体をポカポカする効果があります。もちろん

マキノ病院の真横にある『こらぼらはうす』を皆さんご存知でしょうか？薬局屋さんの裏にあるため「こちら薬局？」とよく間違われるのですが、こちらは市民の憩いの場にとマキノ地域まちづくり委員会より提案があり平成19年8月に開設しました。

もう少しすれば寒さで体調がすぐれない方も出てくると思いますが、そんな方々は、一度ヨモギ足湯に入りに来て下さい。ヨモギ足湯体験時には、ドリームさんのお菓子の販売もしているため地域の方々もゆつくりお話を楽しんで下さい。次回のヨモギ体験は10月25日(月)の10時～12時まで、料金は無料です。

こらぼらはうす



ハウスの室内



し物を開催しています。去年の夏には、紙芝居や歌などを楽しみましたし、冬にはしめ縄づくりを行いました。今年の5月には、「マキノ病院健康祭り」に参加し、健康食品のサンプル展示や病院の栄養士さんによる栄養指導などが行われました。また、こらぼらはうすでは、利用者者を募集しています。例えば、切り絵や絵手紙、キルトなどの教室や講座を開いても

こらぼらはうすでは定期的に催し物を開催しています。去年の夏には、紙芝居や歌などを楽しみましたし、冬にはしめ縄づくりを行いました。今年の5月には、「マキノ病院健康祭り」に参加し、健康食品のサンプル展示や病院の栄養士さんによる栄養指導などが行われました。また、こらぼらはうすでは、利用者者を募集しています。例えば、切り絵や絵手紙、キルトなどの教室や講座を開いても

オツケですし、写真ギャラリーとしての利用も大歓迎です。花の手入れをしていただけるボランティアさんも募集中です。最初にも述べましたが、ここは市民の憩いの場です。バスの待合時間に寄ったり、病院通いの方達が寄り添う、そんな地域の交流・ふれあいの場になればと思っています。こらぼらはうすは予約もいらないので利用するのがとても便利です。平日(月～金)はフリーのオープンスペースで開設は9時～16時となっています。ハウス内には、手芸の本や市民活動されておられる団体のチラシを置いたりしています。沢山の方が、このこらぼらはうすを通して交流が深まればと期待しています。

周辺地図



お問い合わせ

こらぼらはうす運営委員会
事務局：高島市社会福祉協議会
(はあとふるマキノ内) 担当：川嶋
【TEL】 27-1700 【FAX】 27-8058
✉ t-shakyo-m@leto.eonet.ne.jp

きらきら☆NPO市民活動

朽木観光ガイドボランティアグループ



朽木観光ガイドボランティアグループが活動を始めたのは、平成19年8月7日…今から約三年前の事です。発足以前は、現会員の3名ほどがそれぞれ個人的に朽木地域を観光案内していたそうですが、その際も地域の方にも地域のことを知ってもらいたい…と言う想いで勉強会を始めたのがきっかけだったそうです。現在、活動されているメンバーは青年からお年寄りまで幅広く、総員20名の方が所属されています。

勉強会は、テーマに合わせて場所を変えて開かれています。今までに朽木新本陣の研修室や丸八百貨店の三階などの利用をされました。また、興聖寺のお堂では任職を講師に勉強会を開いたそうですし、9月の中旬頃には初となるバス研修で長浜の小谷城跡や、岐阜の関ヶ原に行くなど、その土地や環境に入り込んだ勉強方法を取り入れておられます。勉強の内容は歴史や植物、地理学など色々なテーマを扱っておられます。勉強会で使われるのがこの手作りガイドマニュアルです。(写真→) 実際に観光案内をしている時に一番重要なのは、年代による様々な暮らしをしっかりと把握すること、清川会長はおっしゃっていました。



清川会長とガイドマニュアル

観光案内は、依頼があると会員のスケジュールに合わせてガイド役を決めます。依頼は年間約5件～7件あり、一団体の利用者は約20名の方が参加します。利用される団体は京阪神がもっとも多いようです。観光ガイドの標準コースは《道の駅 かつき新本陣》を出発し《興聖寺・旧秀隣寺庭園》→《鯖街道》→《丸八百貨店》→《朽木市場の町並み》→《朽木資料館》→《朽木陣屋跡》→《道の駅 かつき新本陣》となっていますが、希望によりガイドルートを変更する事も可能です。



興聖寺・旧秀隣寺庭園

その他、朽木地域で行われている祭りでも活躍されています。去年の桜まつりでは、イベントのひとつとして桜並木を歩きながら朽木溪谷にまつわる歴史を説明したり、夏祭りや鯖美庵祭りではスタッフとして参加されています。



観光案内の利用は5名以上、ガイド料は無料です。機会のある方は朽木の歴史や地理、文化にふれてみてはいかがでしょうか？(交流センター 記)

お問い合わせ先

道の駅 かつき新本陣

住所：滋賀県高島市朽木市場777
開設時間：9:00～17:00

電話：0740-38-2398
休館日：火曜、年末・年始

なぜ?なに? おしえて! かつきの歴史

「朽木村史」が発行されるまで、朽木地域限定の広報紙「かつきの歴史」を発行されてきました。こちらの広報紙は市のホームページでバックナンバーが公開されています。一度ご覧下さい。

朽木村史購入ご希望の方は市の資料館または文化財課までご連絡下さい。
文化財課 ☎ 0740-32-4467

そして朽木氏は、鎌倉時代から明治維新にいたる約600年間の長きにわたりお国替えもななく、時の政権から領主として認められていたわけですが、これは極めて珍しいこと言われています。
出典・朽木村史

朽木地域には、室町時代末期に京都での騒乱を避けるために室町幕府12代将軍足利義晴が朽木荘に移って政務を執ったと、元龜元年(1570)織田信長が朝倉攻めにおいて危機に陥った際、朽木の領主朽木元綱が信長の領内通過を認め京都へ無事撤退できたなどの史実が残っています。

朽木地域は高島市の約32%を占め、周囲を500～900メートル級の山々に囲まれた静かな山里です。土地柄、林業が盛んで木材の供給地として、また、木地師の里として栄えました。木地師は愛知郡(現東近江市)から朽木に移ってきたという説が有力で、轆轤(ろくろ)をつかってお盆やお椀などを作っていました。が、明治以降の瀬戸物の普及により勢いを失いました。

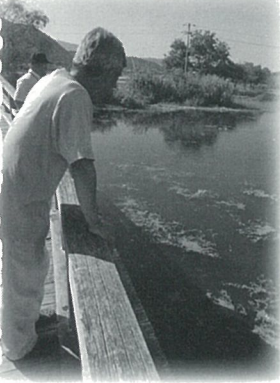
朽木の歴史を紹介

きらきら☆NPO・市民活動

高島地域まちづくり委員会

まちづくり委員会の紹介も半分までできました。今回は「高島地域まちづくり委員会」の長濱委員長にお話をお伺いしました。

乙女ヶ池を調査する長濱委員長



長濱 洋 委員長のお話

現在のまちづくり委員会のメンバーは去年の4月より大幅に変わり、9人の方が新しくまちづくり委員会に入られました。各委員の皆さんは、自分達で何が地域の為にできるのか考え、高島地域を除く旧五町村ではどんな事業をされているのか？また、市外ではどのようなことをしているのか…と、いろんな調査をしました。そして今年2月、まちづくりの先進地である近江八幡市に全員で視察に行き、戻ってからは、地域住民のニーズなどについてアンケート調査をしようなど、たくさんの意見が出ました。そんな活動を通して21項目の実行案が出ました。

その中の2つに、「萩の浜」と「乙女ヶ池」の歴史観光資源の再生があります。萩の浜は《日本の渚100選》にも選ばれていますが、現在の萩の浜には萩の木がないことをまちづくり委員会で取り上げたところ、自治会でも同じような声があり事業が始まりました。去年より地元自治会の協力を得ながら、苗木を植える活動がされています。今後、萩の浜が地域住民の意識を高め、より美しい浜になればと思っています。

もうひとつの、乙女ヶ池は「壬申の乱」や「恵美押勝の乱」など、古来より歴史の舞台に登場していますし、周辺は万葉集にも詠まれています。しかし近年、池は水質汚染や、雑草繁茂、ゴミの散乱など、景観が損なわれる状況になっています。そんな状況から池を守るため、高島地域まちづくり委員会では、乙女ヶ池の再生に重点を置き「乙女ヶ池を美しくする会」を立ち上げ活動を開始しました。

活動を始めたのは今年の3月。清掃活動を始める前に15団体ほどにチラシで呼びかけ34名の方が参加していただきました。ゴミを回収してみたら、2トトラックで5往復するほどの量で大変びっくりしました。その後、定期的にゴミ回収をしようとメンバーから声上がり、第2回目より毎月第1土曜日の8時～9時を活動日にして活動をしています。



釣りを楽しむ際は、マナーを守り農地や周辺施設に入らない。ゴミは持ち帰りましょう。

平成24年春には高島病院が生まれ変わります。乙女ヶ池を美しくすることで、入院療養される方にとっては心が洗われる…そんな効果がある場所にしたいと思います。この小さな活動がきっかけとなって「行政が何でもしてくれる」と言う考えから、自分たち自らが「何かを変えていこう」と言う方向に広がっていったら素晴らしいことです。乙女ヶ池は県の所有ですが、地域の財産・宝なのでみんなが美しさを守るようになればと思います。

今回の清掃活動は11月6日(土)です。どなたでも活動に参加できます。

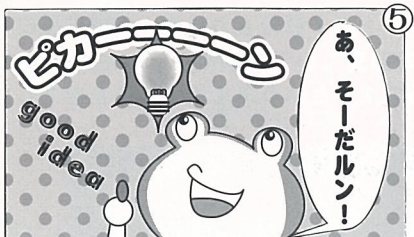
皆さんも一緒に乙女ヶ池を綺麗にしましょう。(連絡: 高島支所 0740-36-1121)

高島地域人回 6,849人 (平成22年8月31日現在 高島市役所ホームページ・高島市の人口世帯数より)



カエルンも何かみんなの役に立ちたいルンねえー…。

清水山城楽クラフ
弓矢体験



あ、ソーダルン!

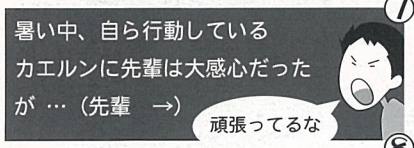


みなさん、ここに並んでルン。僕が扇ぐルンよ〜。

いいねえ

びゅーん

暑いのに大変ねー



暑い中、自ら行動しているカエルンに先輩は大感心だったが…(先輩 →) 頑張ってるな



特製うちわで扇いでルン、お代はひと一万ルン



この後、先輩に怒られたカエルン。あいたあ。未熟なカエルンは、まちづくりを通してどの様に成長するのか…皆さま温かく見守って下さいね。

事務局より

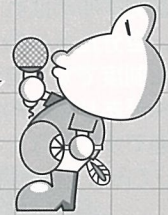
今年のたかしま市民活動屋台村 2010 は天下の中での開催でしたが、沢山の市民の方々にご来場いただきありがとうございました。今後の生活や市民活動をされる中で、参加したい団体や新しい繋がりを発見できましたでしょうか??

この 8 月 28 日以降に新しい一歩が生まれていたら、喜ばしい限りです。
(スタッフ 一同)

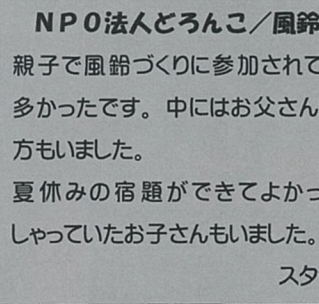
屋台村ブースにて

「体験・参加型」をメインに行われた今年の屋台村は多くの方がNPOや市民活動団体と交流ができた様です。

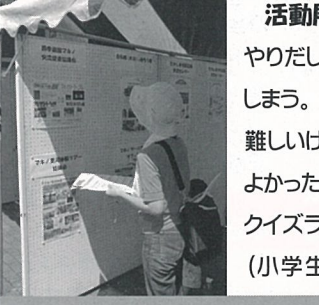
では、お話を聞いてくるルン



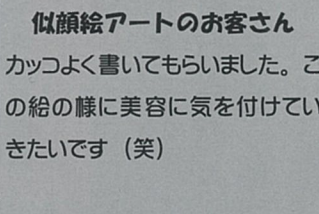
生水の郷委員会/ヨシ笛作り
30人くらいが来られて大好評でした。沢山の方と交流ができ、楽しかったです。
清水 泰夫さん



NPO法人どろんこ/風鈴づくり
親子で風鈴づくりに参加されている方が多かったです。中にはお父さんが熱心な方もいました。
夏休みの宿題ができてよかったとおっしゃっていたお子さんもいました。
スタッフ 一同



活動展示ブース内でクイズラリー
やりだしたら気になって、最後までやってしまう。(親子で挑戦)
難しいけれど知らない高島のことを知れてよかったです。(60代 男性)
クイズラリーを全問解いて回りたい。(小学生)



似顔絵アートのお客さん
カッコよく書いてもらいました。この絵の様に美容に気を付けていきたいです(笑)



非常用持ち出し品ゲーム等
環境を守るいまづの会 / 廃食由でキャンドル作り

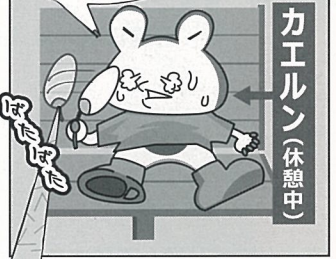


ナルクびわ湖高島/竹どんぼ作り

カエルンレポート

第6号で発表された、まちづくりキャラクタールクターのカエルンが8月28日に行なわれた「たかしま市民活動屋台村2010」の様子をレポートしてくれました。

「たかしま市民活動屋台村 2010」に行ってきたよ!



エコキャップ回収ブースにて



約 43,800 個のペットボトルのキャップが回収できました。これは CO² 削減効果、約 345 kg となり約 55 人分のポリオワクチンを購入することができました。ご協力ありがとうございました。

たかしま INFORMATION

ゆめぱれっと会員募集

ゆめぱれっと会は、働く女性の家（愛称：ゆめぱれっと高島）を利用する市民のみなさんが主体となって、自分たちの持つ知識や技術を広く提供し、学び合うことを目的とした制度です。自分の特技をほかの人にも伝えたい方、講座の企画に興味があり積極的に取り組んでみたい方なら女性だけでなく男性も大歓迎です！あなたならではのステキな思いを、“ゆめぱれっと会”で実現してみませんか？

ヘアビュー&メイクアップ

- ▼日時 平成22年11月16日(火)
9:30~11:30
- ▼場所 働く女性の家 研修室
- ▼講師 風間美香子さん 辻中くみさん
- ▼定員 30名
- ▼受講料 2,000円
- ▼持ち物 鏡、髪どめ、筆記用具、いつもお使いのメイク用具
(※目元はノーメイクでお越しください。)
- ▼申込方法 働く女性の家
TEL / FAX : 0740-22-5775
- ▼受付時間 9時から21時(火~土曜日)
日・月曜日は休館日のためファックスのみ



かめの部屋は移転しました。



絵本とおはなし
かめの部屋
絵本による街づくりの会

昨年5月5日~11月1日の6カ月間、今津町桜町で開室していた“かめの部屋”。いつも利用していただいた方々から『いつ開催するの?』という声を沢山いただきました。そこで今回、今津北ディサービスセンターしふくの杜地域交流スペースをお借りしてオープンしました。どうぞお気軽にお越しください。

- 開設日：毎月第1土曜日と第3土曜日
午後1時30分~3時30分
- 場所：しふくの杜 地域交流スペース
(今津町桂 830 番地 1)
- 連絡先：NPO法人絵本による街づくりの会
☎ 0740-27-8156 (事務局)

図書館ボランティアに参加しませんか？

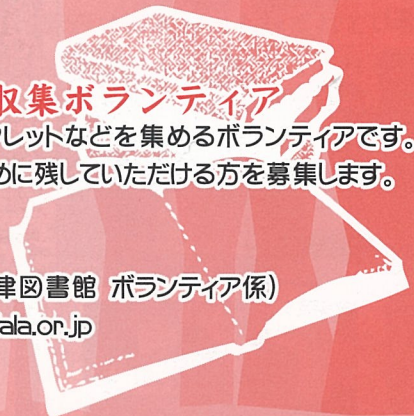
①本の紹介ボランティア

皆さんにぜひ読んで頂きたい本をジャンル毎に集めてチラシを作成します。本をご紹介くださる方、またチラシを作成して下さる方を募集します。

②地域資料収集ボランティア

高島市に関わる本やパンフレットなどを集めるボランティアです。身近なものを将来の市民のために残していただける方を募集します。

連絡先 伊原 辰夫
電話：22-3827 (今津図書館 ボランティア係)
メール：t5a9t1u@ime.plala.or.jp



竹を使ったアートワークショップ

- 日時：平成22年11月3日(水・祝) 10時~15時
(雨天決行、荒天中止)
- 場所：楽農舎なごみの里観光農園
(高島市安曇川町下古賀2579)
- 参加費：おとな2,000円、こども1,000円
(保険料、昼食代、材料費)
- 申込締切：10月29日(金)
- 講師：水野哲雄さん
(京都造形芸術大学子ども芸術学科教授)
- 参加者：小学生以上 定員：20名程度
- 持ち物：軍手
- 服装：汚れてもいい服と靴でお越しください。

申込み先
NPO法人高島なごみの里 代表：坂下道良
(楽農舎なごみの里観光農園)
TEL：090-1150-3659
FAX：0740-22-3640
E-mail：rns-sakachin@nifty.com

子どもおとなも、竹を使った楽器や作品作りに楽しく参加できるワークショップです。一人ひとりがみんなな主役、どんな作品ができるかお楽しみに！

たかしま市民協働交流センター

- たかしま市民協働交流センターは、市民活動、NPOを応援しています。
- ◆〒520-1622 滋賀県高島市今津町中沼1-4-1
(今津東コミュニティーセンター内)
 - ◆TEL：0740(20)5758 FAX：0740(20)5757
 - ◆URL：http://tkkc.takashima-shiga.jp/
 - ◆E-mail：webmaster@tkkc.takashima-shiga.jp
 - ◆開館時間：10時~19時
 - ◆休館日：日曜日・祝日・年末年始(12/28~1/3)

本誌で紹介できなかったイベント情報や助成金・補助金情報を、貴方の携帯電話にメールでお届けします。(毎週金曜日)



“高島市まちづくりメルマガ”

- ・左のQRコードを読み取り空メール
- ・返信メールの指示に従いクリック！

情報誌やメルマガであなたの活動を紹介します。左記へ連絡ください。



この印刷物は、古紙/リブを配合した再生紙と大豆油インキを使用しています。